

デジタルメディア処理1

担当: 井尻 敬

スケジュール

- 09/25 インタロダクション1: デジタル画像とは, 量子化と標本化, Dynamic Range
- 10/02 インタロダクション2: デジタルカメラ, 人間の視覚, 表色系
- 10/09 画像処理演習0: python入門 (PC教室: 課題締め切り 11/13 23:59)
- 10/16 フィルタ処理1: トーンカーブ, 線形フィルタ
- 10/23 フィルタ処理2: 非線形フィルタ, ハーフトーニング
- 10/30 フィルタ処理3: 離散フーリエ変換と周波数フィルタリング
- 11/13 画像処理演習1: フィルタ処理 (PC教室: 課題締め切り 12/08 23:59)
- 11/20 画像処理演習2: フィルタ処理 (PC教室: 課題締め切り 12/08 23:59)
- 12/27 画像処理演習3: フィルタ処理 (PC教室: 課題締め切り 12/08 23:59)
- 12/04 画像処理演習4: フィルタ処理 (PC教室: 課題締め切り 12/08 23:59)
- 12/11 画像の幾何変換 1: アファイン変換と画像補間
- 12/18 ConvolutionとDe-convolution (進度に合わせて変更する可能性有り)
- 01/08 画像圧縮 (進度に合わせて変更する可能性有り)
- 01/15 後半のまとめと期末試験

Contents

達成目標

- フーリエ級数展開の概要を説明できる
- 離散フーリエ変換を計算できる
- 周波数フィルタ処理の計算法と効果を説明できる

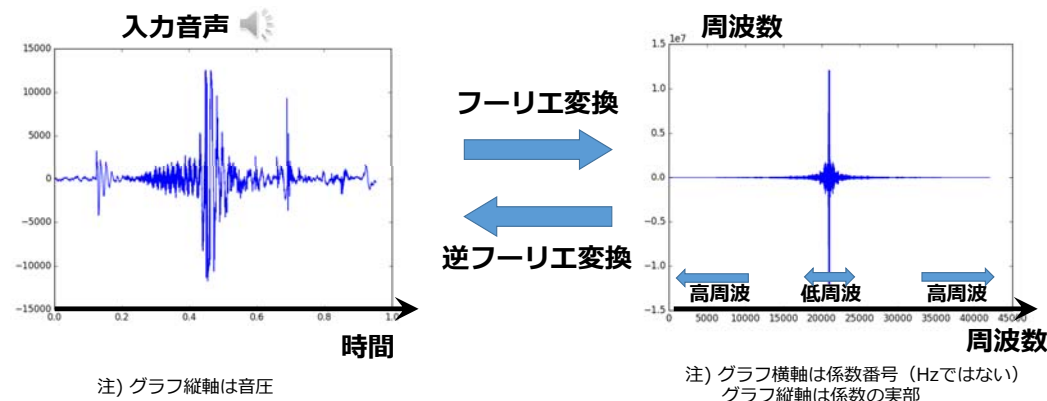
Contents

- フーリエ変換の概要
- フーリエ級数展開
- オイラーの式と複素数表現
- 離散フーリエ変換
- 周波数フィルタリング

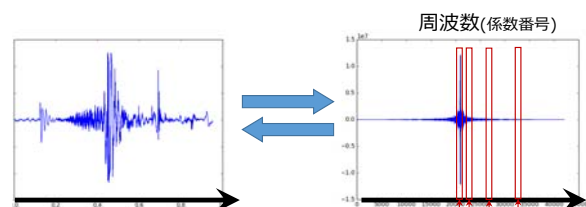
フーリエ変換とは (音)

FourierSound.py

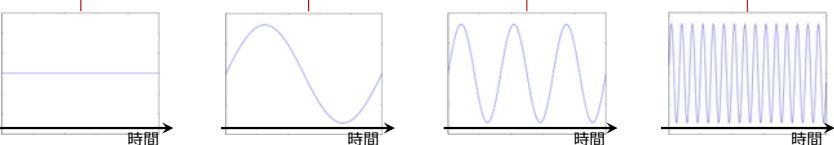
- 横軸が時間の関数を、横軸が周波数の関数に変換する手法



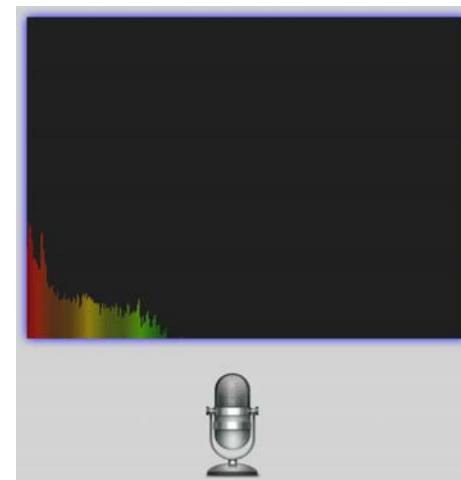
フーリエ変換とは (音)



- フーリエ変換後の関数は元信号に含まれる正弦波の量を示す
- 中央に近いほど低周波, 外ほどが高周波
- 中央 (最も低周波) は, 定数項で直流成分と呼ばれる
 - 直流成分があるので正弦波の組み合わせでも平均値が0でない信号を作れる



※下の波はイメージ
※本来はもっともっと細かいです。



音の実時間フーリエ変換

データ量に依存するが1D/2Dのフーリエ変換は高速なので実時間解析可能

Spector Analyzer
by Hidetomo Kataoka @ 立命館大

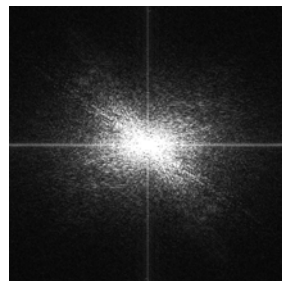
フーリエ変換とは (画像)

- 横軸が時間/空間の関数を、横軸が周波数の関数に変換する手法



画像
(2D空間に画素が並ぶ)

フーリエ変換
逆フーリエ変換

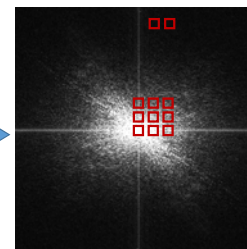


周波数画像
(画素は特定周波数の大きさを示す)

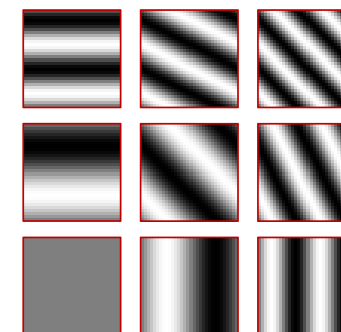
フーリエ変換とは (画像)



フーリエ変換



- フーリエ変換後の画像の画素は元信号に含まれる正弦波の量を示す
- 中央付近が低周波, 外側が高周波
- 中央画素は, 定数項 (直流成分)



この図はイメージです
本来は現画像と同サイズでもっと細かいです

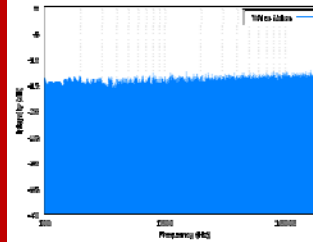
→ 任意の画像はしましま画像の和で表現できる

フーリエ変換とは (画像)

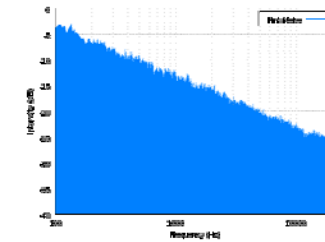
FourierPaint.py
FourierImg.py

余談 (ノイズ)

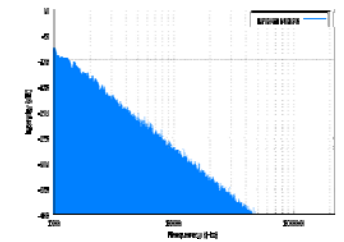
ノイズ (雑音) には、それが含む周波数の分布に応じて特定の名前が付いたものがある



ホワイトノイズ
スペクトルが一様に分布



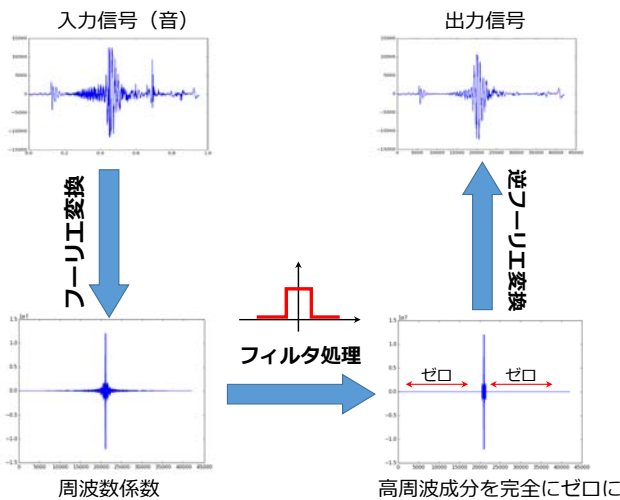
ピンクノイズ
スペクトル分布が $1/f$ に比例



ブラウンノイズ
スペクトル分布が $1/f^2$ に比例

周波数フィルタリング (音)

FourieSound.py



フーリエ変換により周波数を考慮したfilterが設計できる

1. フーリエ変換し
2. 周波数空間でフィルタを掛け
3. 逆フーリエ変換

周波数フィルタリング (音)

イコライザ

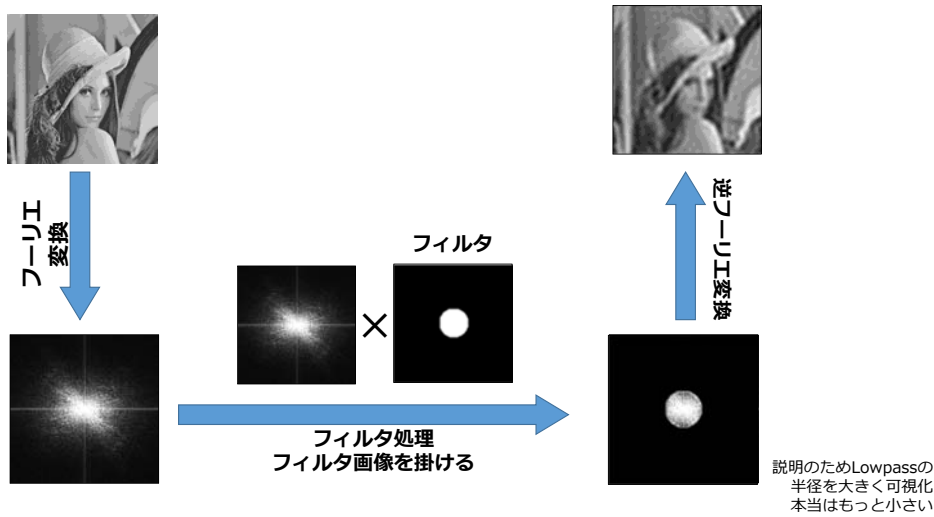
周波数ごとにボリュームを調整する音質調整器

1. 音源をフーリエ変換し
2. 周波数ごとにフィルタを掛け
3. 逆フーリエ変換

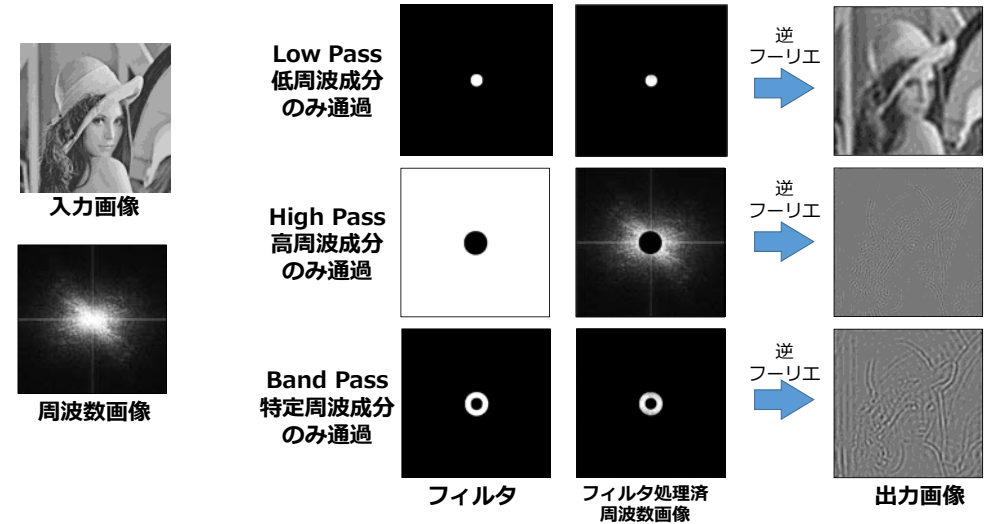


Itunesのイコライザ

周波数フィルタリング (画像)

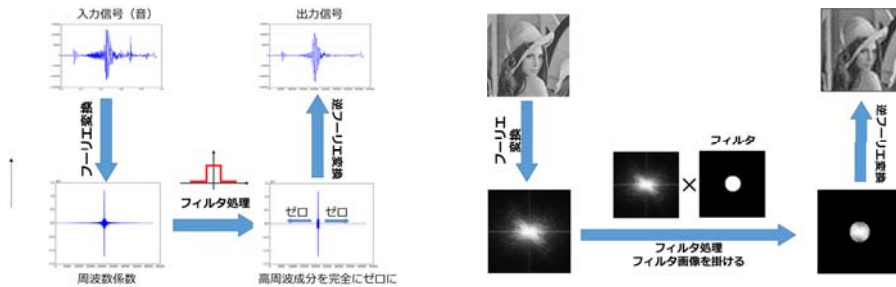


周波数フィルタリング (画像)



まとめ：音・画像のフーリエ変換の概要

- フーリエ変換は、横軸時間の関数を横軸周波数の関数に変換する
 - 逆フーリエ変換も定義される
 - 2次元フーリエ変換は画像へ適用できる
 - 周波数空間でフィルタ処理すると、周波数に特化した信号処理が可能



フーリエ級数展開 (の簡単な説明)

注意)

本講義では、フーリエ変換の意味的な理解と画像処理応用に重点を置きます。
証明と導出の詳細は、信号処理の講義をとるか「[金谷健一:これなら分かる
応用数学教室](#)」を参照してください。

練習

三角関数を合成せよ

$$a \sin \theta + b \cos \theta$$

n と m を非負整数として以下を計算せよ

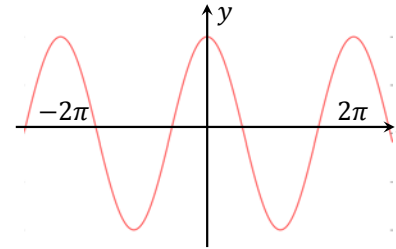
$$\int_{-T/2}^{T/2} \sin \frac{2\pi k}{T} x \cos \frac{2\pi l}{T} x dx$$

$$\int_{-T/2}^{T/2} \sin \frac{2\pi k}{T} x \sin \frac{2\pi l}{T} x dx$$

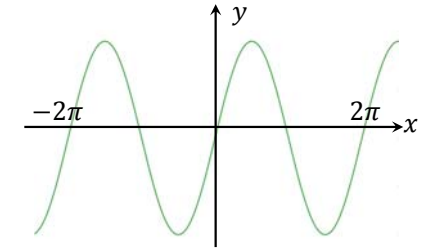
$$\int_{-T/2}^{T/2} \cos \frac{2\pi k}{T} x \cos \frac{2\pi l}{T} x dx$$

三角関数

$$y = \cos x$$



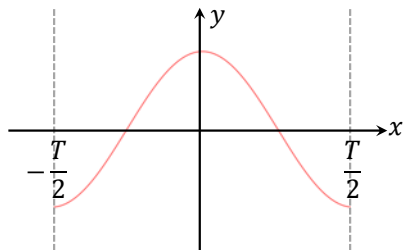
$$y = \sin x$$



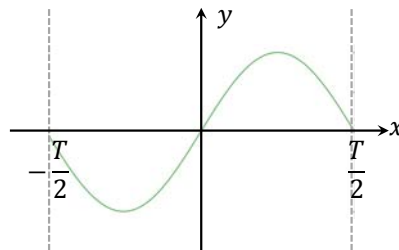
まあこれはいいですね

三角関数

$$y = \cos \frac{2\pi}{T} x = \cos \omega_0 x$$



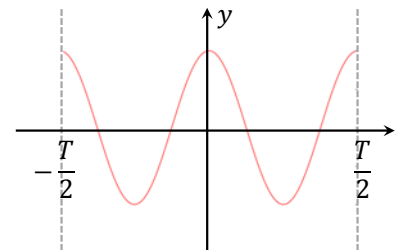
$$y = \sin \frac{2\pi}{T} x = \sin \omega_0 x$$



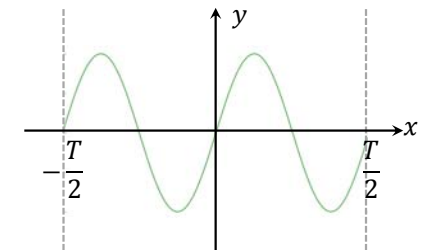
T を周期, ω_0 を基本(角)周波数と呼びます
[- $T/2$, $T/2$]でひと周期の波を取得できました

三角関数

$$y = \cos 2\omega_0 x$$



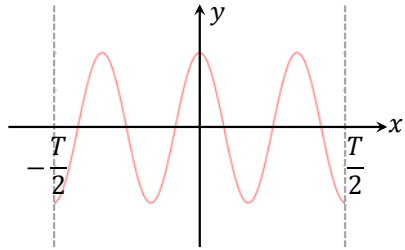
$$y = \sin 2\omega_0 x$$



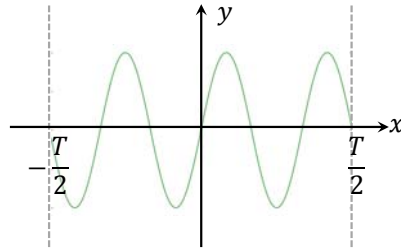
三角関数の引数を2倍すると, 周波数が2倍に、周期が1/2倍になります

三角関数

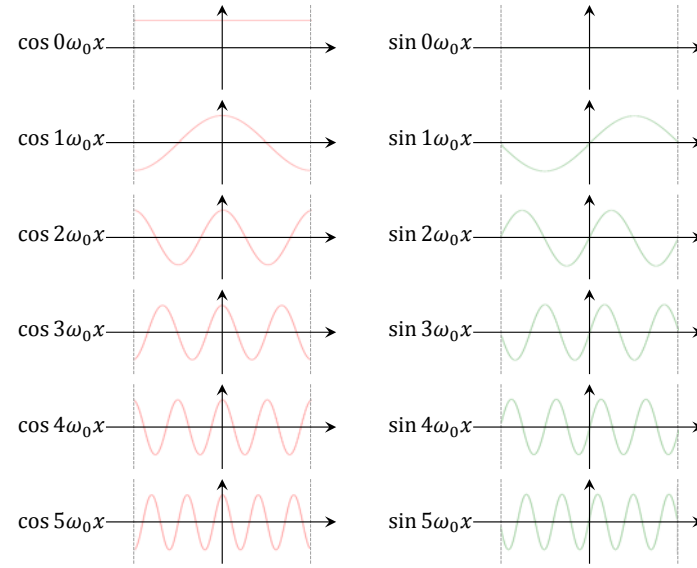
$$y = \cos 3\omega_0 x$$



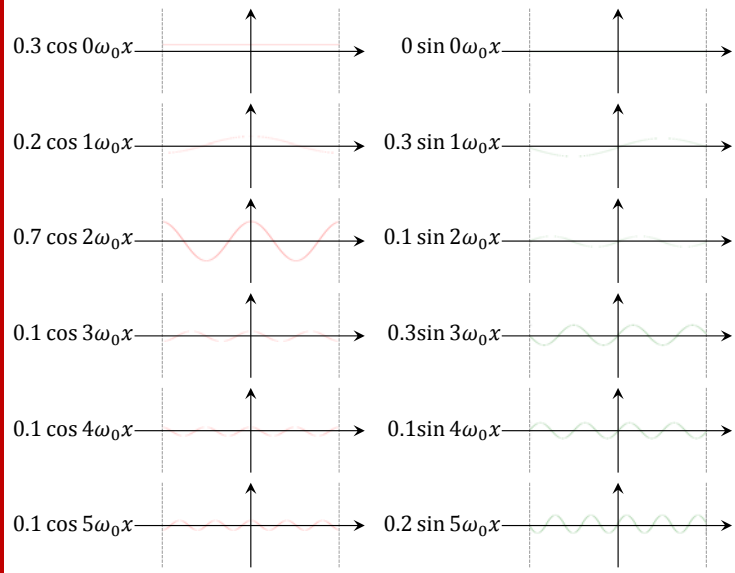
$$y = \sin 3\omega_0 x$$



三角関数の引数を3倍すると、周波数が3倍に、周期が1/3倍になります



こんな感じで基本周波数の整数倍の波を考える

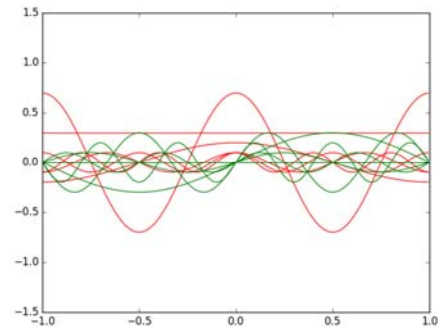


こんな感じで基本周波数の整数倍の波を考える

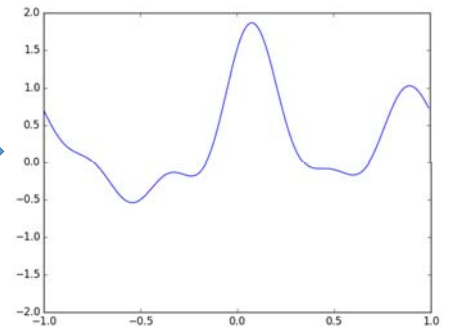
それぞれを定数倍する
(今回はランダムに)

で、それを全部足し合わせてみる

$$0.3 \cos 0\omega_0 x + 0.2 \cos 1\omega_0 x + 0.7 \cos 2\omega_0 x + 0.1 \cos 3\omega_0 x + 0.1 \cos 4\omega_0 x + 0.1 \cos 5\omega_0 x + 0.0 \sin 0\omega_0 x + 0.3 \sin 1\omega_0 x + 0.1 \sin 2\omega_0 x + 0.3 \sin 3\omega_0 x + 0.1 \sin 4\omega_0 x + 0.2 \sin 5\omega_0 x$$

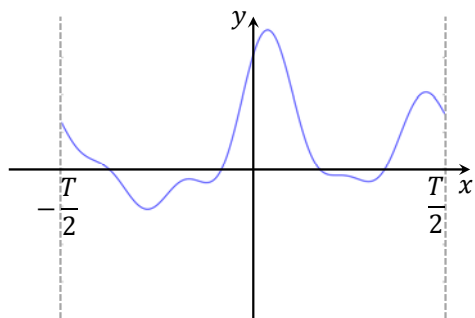


和



フーリエ級数展開のとても簡単な説明

- (1) $[-T/2, T/2]$ の周期関数は、周期は T/k (k は正整数)の三角関数の重ね合わせで表現できる (証明など詳細は信号処理の講義へ)
- (2) 合成後の周期関数を受け取ると、この合成後の波から合成前の各関数の係数を推定できる (どうやって?)



0.3 $\cos 0\omega_0 x$	0.0 $\sin 0\omega_0 x$
0.2 $\cos 1\omega_0 x$	0.3 $\sin 1\omega_0 x$
0.7 $\cos 2\omega_0 x$	0.1 $\sin 2\omega_0 x$
0.1 $\cos 3\omega_0 x$	0.3 $\sin 3\omega_0 x$
0.1 $\cos 4\omega_0 x$	0.1 $\sin 4\omega_0 x$
0.1 $\cos 5\omega_0 x$	0.2 $\sin 5\omega_0 x$

『この元信号の中には、 $\cos 2\omega_0 x$ の成分が0.7だけ含まれている』というの分かる

フーリエ級数展開のとても簡単な説明

- (2) 合成後の周期関数 $f(x)$ を受け取ると、この合成後の波から合成前の各関数の係数を推定する ←どうやって??

例 $\cos 2\omega_0 x$ の係数を知りたい場合...

- 1) $f(x)$ に $\cos 2\omega_0 x$ を掛けた関数を作る

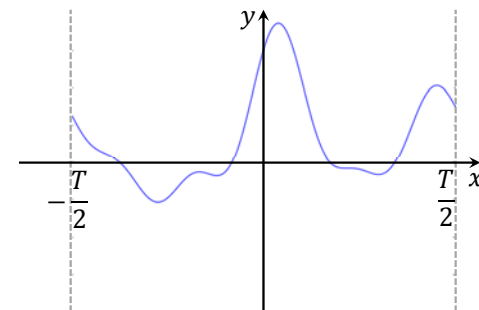
$$f(x) \cos 2\omega_0 x$$

- 2) 係数 $\frac{2}{T}$ もかける

$$\frac{2}{T} f(x) \cos 2\omega_0 x$$

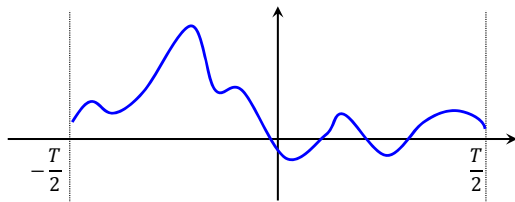
- 3) これを周期分だけ積分すると係数が得られる

$$\text{係数} = \frac{2}{T} \int_{-T/2}^{T/2} f(t) \cos 2\omega_0 t dt$$



フーリエ級数

区間 $[-\frac{T}{2}, \frac{T}{2}]$ 上の連続関数 $f(t)$ は、フーリエ級数で表現できる。



$$f(t) = \frac{a_0}{2} + \sum_{k=1}^{\infty} (a_k \cos k\omega_0 t + b_k \sin k\omega_0 t)$$

$$a_k = \frac{2}{T} \int_{-T/2}^{T/2} f(t) \cos k\omega_0 t dt$$

$$b_k = \frac{2}{T} \int_{-T/2}^{T/2} f(t) \sin k\omega_0 t dt$$

$$\omega_0 = \frac{2\pi}{T} : \text{基本周波数}$$

※天下り的な説明で済みません。ここではそういう事実があると知っておいてください。

※詳細な導出と証明は、信号処理の講義、または、『これなら分かる応用数学教室 (金谷健一著)』を参照

フーリエ級数

区間 $[-\frac{T}{2}, \frac{T}{2}]$ 上の連続関数 $f(t)$ は、フーリエ級数で表現できる。

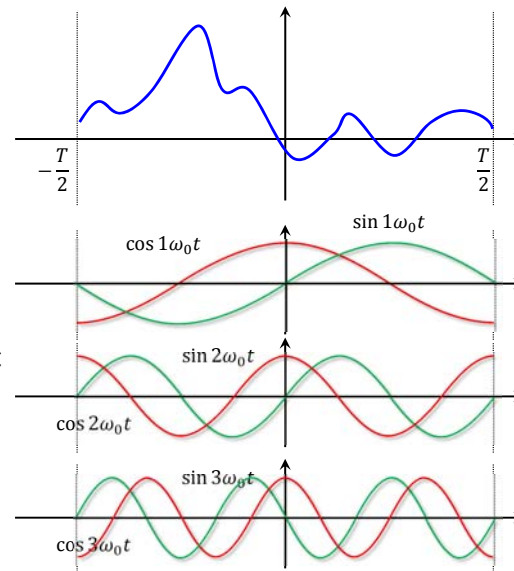
$$f(t) = \frac{a_0}{2}$$

$$+ a_1 \cos 1\omega_0 t + b_1 \sin 1\omega_0 t$$

$$+ a_2 \cos 2\omega_0 t + b_2 \sin 2\omega_0 t$$

$$+ a_3 \cos 3\omega_0 t + b_3 \sin 3\omega_0 t$$

+ ...



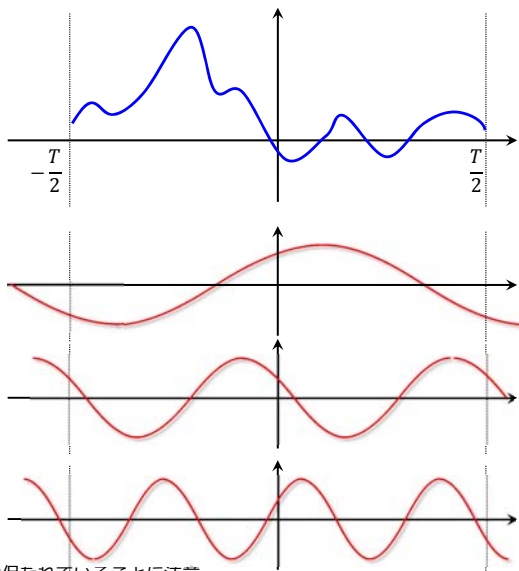
フーリエ級数

区間 $[-\frac{T}{2}, \frac{T}{2}]$ 上の連続関数 $f(t)$ は、
フーリエ級数で表現できる。

$$f(t) = \frac{a_0}{2} + a_1 \sin(1\omega_0 t + \phi_1) + a_2 \sin(2\omega_0 t + \phi_2) + a_3 \sin(3\omega_0 t + \phi_3) + \dots$$

「sin と cos の振幅を変えて足す」とも思えるが、
「 a_k と b_k で振幅と位相ずれを制御する」とも見てよい

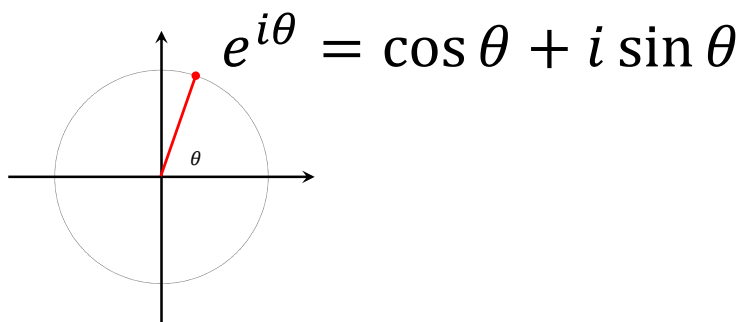
位相がずれても、 $-\frac{T}{2}$ と $\frac{T}{2}$ における位置は同じなので、周期性は保たれていることに注意



Contents

- フーリエ変換の概要
- フーリエ級数展開
- **オイラーの式と複素数表現**
- 離散フーリエ変換
- 周波数フィルタリング

オイラーの式



$e^{i\theta}$ はガウス平面における単位円に乗る

これはもうこういう表記法だと思って覚えてください

練習) 複素数の積を求めよ

$$\bullet a(\cos \theta + i \sin \theta) * b(\cos \phi + i \sin \phi)$$

以下の関係を証明せよ

$$\bullet e^{i\theta} e^{i\phi} = e^{i(\theta+\phi)}$$

$$\bullet (e^{i\theta})^n = e^{in\theta}$$

$$\bullet \cos \theta = \frac{e^{i\theta} + e^{-i\theta}}{2}$$

$$\bullet \sin \theta = \frac{e^{i\theta} - e^{-i\theta}}{2i}$$

フーリエ級数の複素数表現

区間 $[-\frac{T}{2}, \frac{T}{2}]$ 上の連続関数 $f(t)$ は、フーリエ級数で表現できる。

$$f(t) = \frac{a_0}{2} + \sum_{k=1}^{\infty} (a_k \cos k\omega_0 t + b_k \sin k\omega_0 t)$$

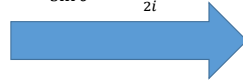
$$a_k = \frac{2}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) \cos k\omega_0 t dt$$

$$b_k = \frac{2}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) \sin k\omega_0 t dt$$

$$\omega_0 = \frac{2\pi}{T} : \text{基本周波数}$$

$$\cos \theta = \frac{e^{i\theta} + e^{-i\theta}}{2}$$

$$\sin \theta = \frac{e^{i\theta} - e^{-i\theta}}{2i}$$



$$f(t) = \sum_{k=-\infty}^{\infty} C_k e^{ik\omega_0 t}$$

$$C_k = \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) e^{-ik\omega_0 t} dt$$

練習: 下の式(1)-(5)より, 式(6),(7)を導け

$$f(t) = \frac{a_0}{2} + \sum_{n=1}^{\infty} (a_n \cos n\omega_0 t + b_n \sin n\omega_0 t) \dots (1)$$

$$f(t) = \sum_{k=-\infty}^{\infty} C_k e^{ik\omega_0 t} \dots (6)$$

$$a_k = \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) \cos k\omega_0 t dt \dots (2)$$

$$b_k = \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) \sin k\omega_0 t dt \dots (3)$$

$$\cos \theta = \frac{e^{i\theta} + e^{-i\theta}}{2} \dots (4)$$

$$\sin \theta = \frac{e^{i\theta} - e^{-i\theta}}{2i} \dots (5)$$

$$C_k = \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) e^{-ik\omega_0 t} dt \dots (7)$$

以下のフーリエ級数展開が成り立つものとする。

$$f(t) = \frac{a_0}{2} + \sum_{n=1}^{\infty} (a_n \cos n\omega_0 t + b_n \sin n\omega_0 t) \dots (1)$$

$$a_k = \frac{2}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) \cos k\omega_0 t dt \dots (2)$$

$$b_k = \frac{2}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) \sin k\omega_0 t dt \dots (3)$$

一方オイラーの式より,

$$\cos \theta = \frac{e^{i\theta} + e^{-i\theta}}{2}, \quad \sin \theta = \frac{e^{i\theta} - e^{-i\theta}}{2i} \dots (4)$$

が得られる。

式(4)を式(1)へ代入し整理すると、

$$f(t) = \frac{a_0}{2} + \sum_{k=1}^{\infty} \left(a_k \frac{e^{ik\omega_0 t} + e^{-ik\omega_0 t}}{2} + b_k \frac{e^{ik\omega_0 t} - e^{-ik\omega_0 t}}{2i} \right)$$

$$= \frac{a_0}{2} + \frac{1}{2} \sum_{k=1}^{\infty} (a_k (e^{ik\omega_0 t} + e^{-ik\omega_0 t}) - ib_k (e^{ik\omega_0 t} - e^{-ik\omega_0 t}))$$

$$= \frac{a_0}{2} + \frac{1}{2} \sum_{k=1}^{\infty} ((a_k - ib_k) e^{ik\omega_0 t} + (a_k + ib_k) e^{-ik\omega_0 t})$$

$$= \sum_{k=-\infty}^{\infty} C_k e^{ik\omega_0 t} \dots (5)$$

ただし,

$$C_k = \begin{cases} \frac{a_k - ib_k}{2} & k > 0 \\ \frac{a_0}{2} & k = 0 \\ \frac{a_{-k} + ib_{-k}}{2} & k < 0 \end{cases} \dots (6)$$

と置いた。

また, 式(6)に式(2)(3)を代入し整理すると,

$$\frac{a_k - ib_k}{2} = \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) \cos k\omega_0 t dt - i \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) \sin k\omega_0 t dt$$

$$= \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) (\cos k\omega_0 t - i \sin k\omega_0 t) dt$$

$$= \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) e^{-ik\omega_0 t} dt \dots (7)$$

$$\frac{a_{-k} + ib_{-k}}{2} = \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) \cos -k\omega_0 t dt + i \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) \sin -k\omega_0 t dt$$

$$= \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) (\cos k\omega_0 t + i \sin k\omega_0 t) dt$$

$$= \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) e^{ik\omega_0 t} dt \dots (8)$$

$$\frac{a_0}{2} = \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) dt = \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) e^{-i0\omega_0 t} dt \dots (9)$$

上記(5,6,7,8,9)より,

$$f(t) = \sum_{k=-\infty}^{\infty} C_k e^{ik\omega_0 t}$$

$$C_k = \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) e^{-ik\omega_0 t} dt \dots (10)$$

フーリエ級数展開の複素数表現が得られる。

まとめ: フーリエ級数展開

※今回は導出と証明を省きました
詳しく知りたい人は教科書参照

• オイラーの式 $e^{i\theta} = \cos \theta + i \sin \theta$

$$e^{i\theta} e^{i\phi} = e^{i(\theta+\phi)}, \quad (e^{i\theta})^n = e^{in\theta}, \quad \cos \theta = \frac{e^{i\theta} + e^{-i\theta}}{2}, \quad \sin \theta = \frac{e^{i\theta} - e^{-i\theta}}{2i}$$

• フーリエ級数展開: 周期Tを持つ関数は正弦波の重ね合せで表現可

$$f(t) = \frac{a_0}{2} + \sum_{n=1}^{\infty} (a_n \cos n\omega_0 t + b_n \sin n\omega_0 t), \quad a_k = \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) \cos k\omega_0 t dt, \quad b_k = \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) \sin k\omega_0 t dt$$

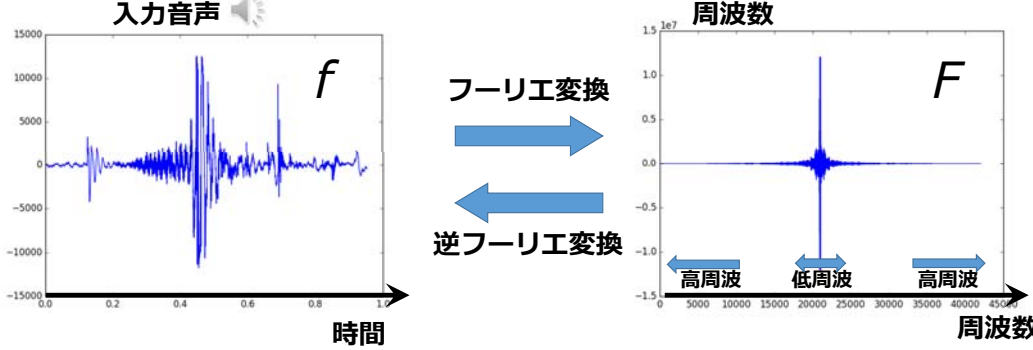
• フーリエ級数展開 (複素数表現):

上式にオイラーの式を代入すると以下のように変形できる

$$f(t) = \sum_{k=-\infty}^{\infty} C_k e^{ik\omega_0 t}, \quad C_k = \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) e^{-ik\omega_0 t} dt$$

フーリエ変換とは

- 横軸が時間の関数を、横軸が周波数の関数に変換する手法

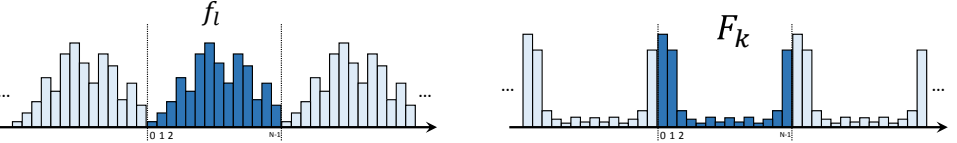


Contents

- フーリエ変換の概要
- フーリエ級数展開
- オイラーの式と複素数表現
- **離散フーリエ変換**
- 周波数フィルタリング

離散フーリエ変換 (1D)

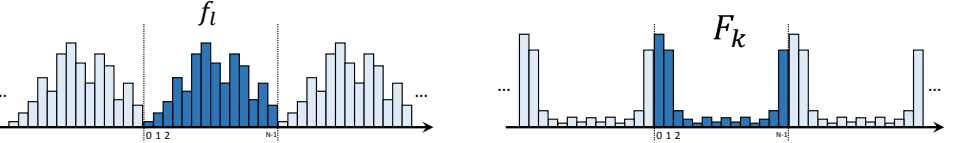
$$\text{フーリエ変換 } F_k = \frac{1}{N} \sum_{l=0}^{N-1} f_l e^{-i \frac{2\pi k l}{N}} \quad \text{逆フーリエ変換 } f_l = \sum_{k=0}^{N-1} F_k e^{i \frac{2\pi k l}{N}}$$



- 周期Nの離散値f_lを周期Nの離散値F_kに変換する
- f_lとF_kは複素数 (ただしf_lは実数列のことが多い)
- f_lが実数の場合F_k = F_{-k}^*が成り立つ (F_{-k} = F_{N-k})

離散フーリエ変換 (1D)

$$\text{フーリエ変換 } F_k = \frac{1}{N} \sum_{l=0}^{N-1} f_l \left(\cos \frac{2\pi k l}{N} - i \sin \frac{2\pi k l}{N} \right) \quad \text{逆フーリエ変換 } f_l = \sum_{k=0}^{N-1} F_k \left(\cos \frac{2\pi k l}{N} + i \sin \frac{2\pi k l}{N} \right)$$



- 周期Nの離散値f_lを周期Nの離散値F_kに変換する
- f_lとF_kは複素数 (ただしf_lは実数列のことが多い)
- f_lが実数の場合F_k = F_{-k}^*が成り立つ (F_{-k} = F_{N-k})

離散フーリエ変換の計算例

$$F_k = \frac{1}{N} \sum_{l=0}^{N-1} f_l e^{-i \frac{2\pi k l}{N}}$$

↑複素数とかでできて
ややこしそうだけど
ただの和分

$N = 8$ のとき

入力: $f_0, f_1, f_2, f_3, f_4, f_5, f_6, f_7$

$$F_0 = \frac{1}{8} \left[f_0 \left(\cos \frac{2\pi \cdot 0}{8} + i \sin \frac{2\pi \cdot 0}{8} \right) + f_1 \left(\cos \frac{2\pi \cdot 0}{8} + i \sin \frac{2\pi \cdot 0}{8} \right) + \dots + f_7 \left(\cos \frac{2\pi \cdot 0}{8} + i \sin \frac{2\pi \cdot 0}{8} \right) \right]$$

$$F_1 = \frac{1}{8} \left[f_0 \left(\cos \frac{2\pi \cdot 1}{8} + i \sin \frac{2\pi \cdot 1}{8} \right) + f_1 \left(\cos \frac{2\pi \cdot 1}{8} + i \sin \frac{2\pi \cdot 1}{8} \right) + \dots + f_7 \left(\cos \frac{2\pi \cdot 1}{8} + i \sin \frac{2\pi \cdot 1}{8} \right) \right]$$

$$F_2 = \frac{1}{8} \left[f_0 \left(\cos \frac{2\pi \cdot 2}{8} + i \sin \frac{2\pi \cdot 2}{8} \right) + f_1 \left(\cos \frac{2\pi \cdot 2}{8} + i \sin \frac{2\pi \cdot 2}{8} \right) + \dots + f_7 \left(\cos \frac{2\pi \cdot 2}{8} + i \sin \frac{2\pi \cdot 2}{8} \right) \right]$$

$$F_3 = \frac{1}{8} \left[f_0 \left(\cos \frac{2\pi \cdot 3}{8} + i \sin \frac{2\pi \cdot 3}{8} \right) + f_1 \left(\cos \frac{2\pi \cdot 3}{8} + i \sin \frac{2\pi \cdot 3}{8} \right) + \dots + f_7 \left(\cos \frac{2\pi \cdot 3}{8} + i \sin \frac{2\pi \cdot 3}{8} \right) \right]$$

⋮

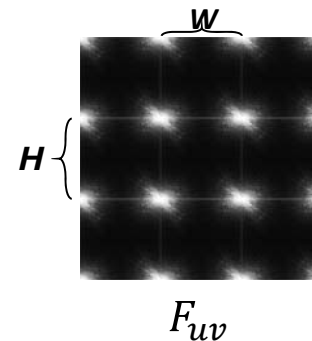
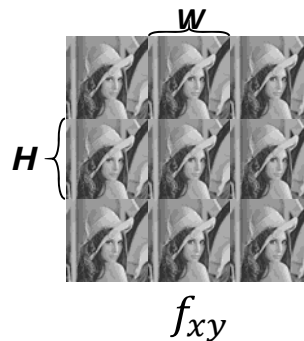
離散フーリエ変換 (2D)

フーリエ変換:

$$F_{uv} = \frac{1}{WH} \sum_{y=0}^{H-1} \sum_{x=0}^{W-1} f_{xy} e^{-i \frac{2\pi x u}{W}} e^{-i \frac{2\pi y v}{H}}$$

逆フーリエ変換:

$$f_{xy} = \sum_{v=0}^{H-1} \sum_{u=0}^{W-1} F_{uv} e^{i \frac{2\pi x u}{W}} e^{i \frac{2\pi y v}{H}}$$



縦横方向に周期H/Wで繰り返す離散値 f_{xy} を, 離散値 F_{uv} に変換

f_{xy} と F_{uv} は複素数列.

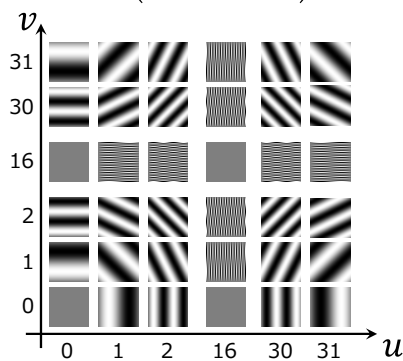
ただし, f_{xy} は画像 (実数列) のことが多い



$$f_{xy} = \sum_{v=0}^{H-1} \sum_{u=0}^{W-1} F_{uv} e^{i \left(\frac{2\pi x u}{W} + \frac{2\pi y v}{H} \right)}$$

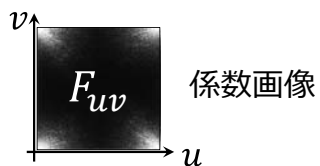
$W=H=32$ のときの

$$\sin \left(\frac{2\pi x u}{W} + \frac{2\pi y v}{H} \right)$$



$F_{u,v}$ は上の (u,v) 番目の画像の係数

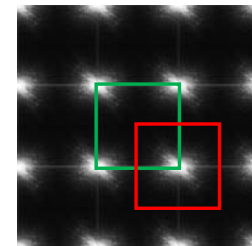
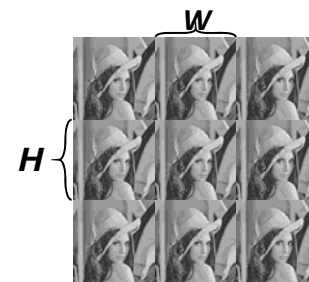
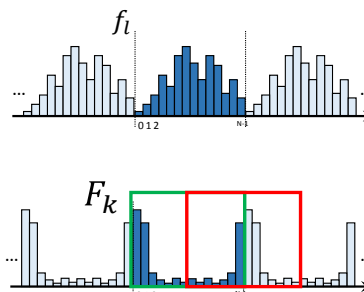
実際は $F_{u,v}$ は複素数画像



係数画像

- $F_{0,0}$ は定数 (直流成分) の係数
- $F_{u,v}$ は, 画像区間において『縦に u 回・横に v 回振動する正弦波画像』の係数
- $U=v=N/2$ がもっとも高周波で, $u=N-1$ は $u=1$ の正弦波と同じ周波数 (位相は逆)

Shiftの話



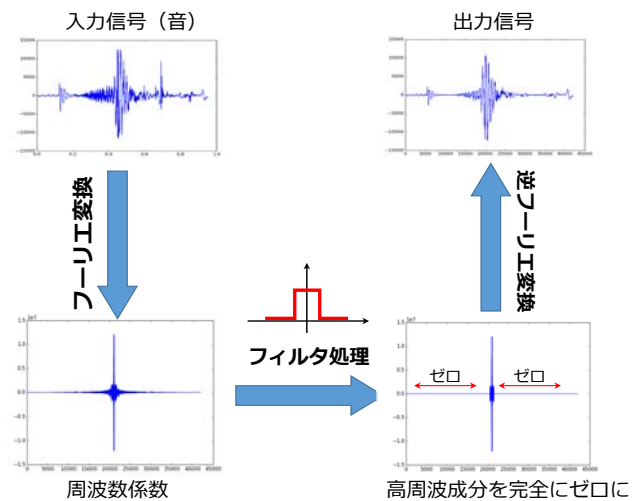
- フーリエ変換を実装すると, ピークが端に来る変換結果になる

- 上図緑四角: これは間違いじゃない
- 低周波成分を中心においたほうが分かりやすいので 上図赤四角の位置を出力することが多い
- このshiftを行なう関数が用意されていることも → `np.fft.ifftshift()`

Contents

- フーリエ変換の概要
- フーリエ級数展開
- オイラーの式と複素数表現
- 離散フーリエ変換
- **周波数フィルタリング**

周波数フィルタリング (音)

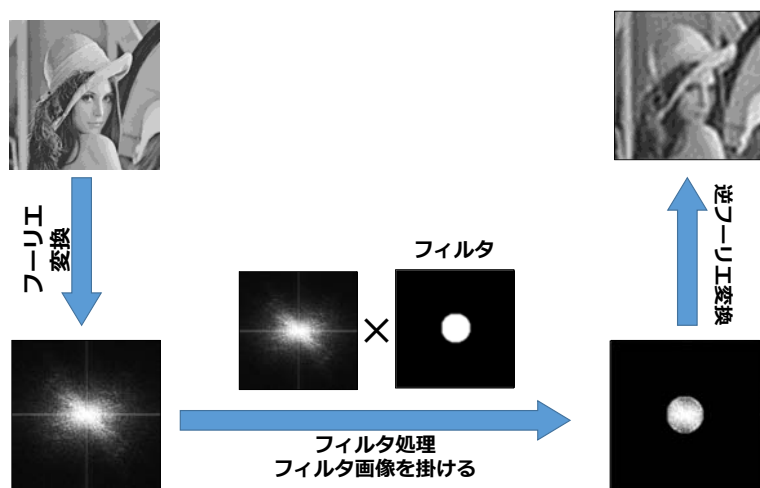


フーリエ変換により周波数を考慮したfilterが設計できる

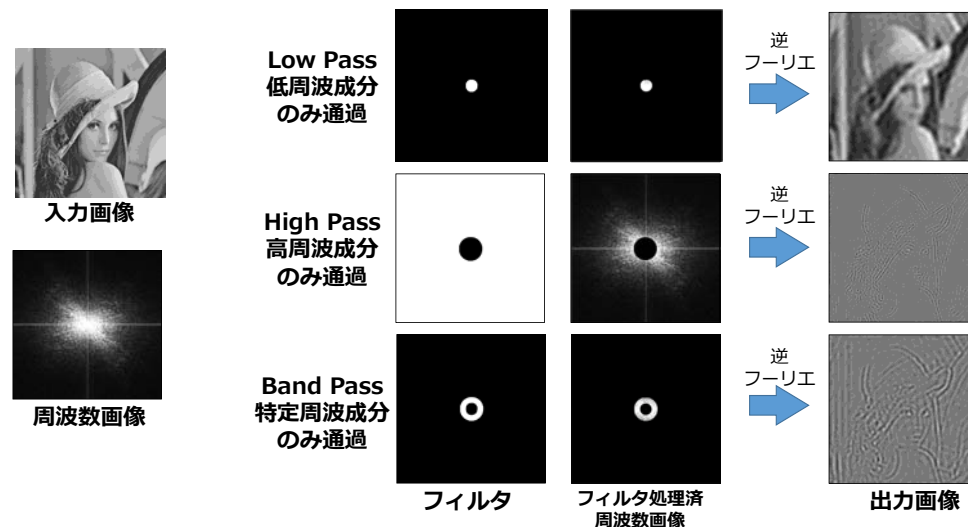
1. フーリエ変換し
2. 周波数空間でフィルタを掛け
3. 逆フーリエ変換

さっきのスライドです！

周波数フィルタリング (画像)

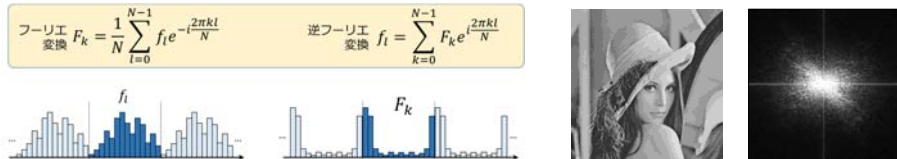


周波数フィルタリング (画像)



まとめ：離散フーリエ変換と周波数フィルタ

離散フーリエ変換（1D/2D）の実装方法を解説した



周波数空間でマスクを掛ける周波数フィルタを紹介した

